

俳句文学館

発行所
社団法人
俳人協会
東京都新宿区
百人町3-28-10
郵便番号160
電話(03)367-6621
(代)
発行人 草間 時彦
定価 100円(送料別)
(年1,000円)
送料 300円
振替口座東京
6-273番

設定 賞 評論 協会 人俳

分野は評論・研究・伝記 選考委員を会長の一任に

俳人協会は去る六月二日の理事会で、本年度より実施することになった。この賞は従来からの俳人協会賞、同人賞に加えて、第三の賞となる。また、俳壇に評論を対象とした賞が設定されるのは初めてであり、各方面から注目されている。

単行本、雑誌連載等が対象に

本賞は評論・研究・伝記等の分野で、顕著な業績を挙げた俳人協会員に授与されるものであり、単行本、雑誌連載等のものも含まれる。従来は人の眼に触れることの少ない地方雑誌などの地味な研究が見直される機会を得られるものと期待されている。

評論賞の解説
俳人協会の賞は去る三月の理事会で、選考委員を会長の一任に決定した。この賞は従来からの俳人協会賞、同人賞に加えて、第三の賞となる。また、俳壇に評論を対象とした賞が設定されるのは初めてであり、各方面から注目されている。

俳壇の交流に 成果を挙げる

北海道懇親俳句大会

ライラックの花の香る五月の五月に開かれた五月十六日、札幌市教育文化会館で、社団法人俳人協会主催の北海道懇親俳句大会が盛況で開かれた。大に開催された。協会からは、沢木欣一、野沢節子、宮下翠舟の三氏を迎え、道内俳壇は風通しが良かった。これを各地からの参加者三五〇名が会場に集まり、交流を深めた。

- 沢木欣一 天位 大輪松霞
雪の上を落ちて沈めるをがせ
地位 葛西杏雄
街中にライラック香るはへり
人位 小松節子
野沢節子 天位 今井里女
白鳥を見に来しことが遠くかな
地位 金丸礼子
めざめよき蝦夷の神々鹿の角
人位 秋庭みき子
古橋の扉に響く御母様餅
宮下翠舟 天位 阿木トキ

七月集

月曜集より
大野林火神奈川
田起しの近江や村も濡れいろに
けふ花に暮れたり膳に初詣子
鳥帰るみづうみに出てひたすらに

街騒のここには遠く額の花
くたびれし浴衣意にせず額の花
額咲いて古き畳の梧逸庵

道なけれど海女通う焙岩の上
海女の桶相寄ることなく浮かぶ
焙岩の磯さざえ焼く火の猛りけり

書き出しのこぼれをば選ぶ籠籠
湧く雲に濃淡のあり栗の花
母の手のいつも濡れをり初つばめ

髪剪つてプル開きを待つばかり
風鈴や気儘ぐらしの身について
好きな方向いて山百合ひらきけり

懸橋は、ライラックの香に包
まれた大連に面した第一ホテル
に二〇名が参加。正に狭い結
社意識を越えた歓談に花を咲か
せ、風通しの通る会場であった。

当日の選考委員は、協会から沢木欣
一氏、野沢節子氏、宮下翠舟氏、
実行委員の香藤玄氏、藤又木風雨
氏、北光眞氏、山岸巨狼氏、新明
繁氏、岡沢康司氏、客員選考委
員として阿部憲貞氏、飯島交魚子氏、
永田耕一郎氏、橋谷美枝子氏、平
井孝子氏により行われた。投票
者数は七百七、二一〇名から
の特選は次のとおり。

流水の海辺の宿の古びたる
地位 野沢松路
稲穂袖裾より出てにけり
人位 島根善浪
引籠の空のひかりとなりて消ゆ
以下略

早くも編集 作業が進む

俳句カレンダー
昭和五十五年版
俳句カレンダー
俳人協会編「俳句カレンダー」
は、昭和四十八年に初めて刊行さ
れて以来、そのユニークなスタイル
と内容で好評を博しているが、
早くも来年の昭和五十五年版の編
集が、俳句カレンダー編集委員会
によって進められている。

すでに協会会員二七〇名の例
の取りまとめを終え、月別掲載の
色紙短冊の揮毫を依頼中である。
色紙短冊の執筆者は次の通り。
一月・皆吉英雨(色紙)。二月
・中村汀女(色紙)。三月・石原
舟月・遠藤静逸(短冊)。四月・
中村草田男(色紙)。五月・星野
立子(色紙)。六月・安住敏(色
紙)。七月・大野林火・石塚友二
(短冊)。八月・山口雪子(色
紙)。九月・阿波野青歌(色紙)
十月・殿村茂穂子・沢木欣一(短
冊)。十一月・山口青柳(色紙)
十二月・水原秋桜子(色紙)。
揮毫用色紙十二枚綴りの体裁
は従前通りだが、配色・レイアウト
には美術専門の編集委員が特に
力を入れている。

また新しく俳句歳
時記が刊行されるよ
うだが、これまでの
歳時記、季節せのう
ちでもっとも版を重
ねたものは、虚子編
「季節せ」であろうか。初版は
昭和十五年、それ以後版に及
んでいないのであろうか。私は
終戦直後の仙花紙のものをも最
初に買ったが、どこか置き忘
れること三度、現在は四冊目の
昭和三十六年十九版を使用中。
▼この「季節せ」の季節歌をか
ぞると、四一五となり、う
ちカワナ季節は四四。一月
スキー・スケート。四月
リップ・ピヤンス・シクラ
メン・スエード・ヒトシハラ
ヤ・アナモネ・フリージア・ポ
ートレース・ライラック。五月
セル・ネル・アカシヤの花。
六月
ググラチオラス・アマリリ
ス・チキリス・サルピヤ。七
月
ハチマック・キムラビ。ハ
ンカチーフ・メロン。冷しコ
ヒー・アイスクリン・ラムネ
・ソーダ水・ビール・ポ
ット・コラ・トマト・タ
リヤ。八月
カンナ。九月
コスモス。十二月
ストウ・ベ
チカ・ステム・マスケ・ショ
ール・マップ・コート・フレ
ム・クリスマス・ポナスとな
り、七月の十四がもっとも多
い。▼最近の歳時記になるとさ
らにその数は増加してくる。レ
ザリ・パンガロー・プル
ダイビング・ダービー・ナイタ
ー・パイナップル・バナナ・ア
イス・ユッカ・カーネーション
など、さらに冷し紅茶と呼ん
でいたのが、最近ではアイス
ティーに定着。俳句の季節にお
いてこれである。外来語をま
ま日本語に定着させていく強
い日本語の体系に、あらため
ておどろかすにはいられない。
(お)



北海道懇親俳句大会の会場(壇上は講演する沢木欣一氏)

水原秋桜子全集

講談社版 全二十一巻
好評発売中いよいよ完結近し
定価各巻 2,900円

第一巻 句集一☆	第八巻 日記☆	第十五巻 俳句作法☆
第二巻 句集二☆	第九巻 鑑賞一☆	第十六巻 隨筆一☆
第三巻 句集三☆	第十巻 鑑賞二☆	第十七巻 隨筆二☆
第四巻 句集四☆	第十一巻 鑑賞三☆	第十八巻 紀行☆
第五巻 句集五☆	第十二巻 芸術論☆	第十九巻 自伝回想☆
第六巻 俳論☆	第十三巻 自白自解☆	第二十巻 古典研究一☆
第七巻 作家論☆	第十四巻 入門・吟行・添削☆	第二十一巻 古典研究二・雑稿

講談社 (☆印は既刊)

角川 日本地名大辞典

ふるさとを愛する人びとに、歴史を旅する人びとに...
日本の風土と文化を探る人びとに...

■豊富な地名——全50万項目に及ぶ画期的項目数!
■引きやすさ——小項目主義による五十音順配列!
■充実した解説——2千名をこえる研究者を総動員!
■広い読者層——家庭・学校・職場に必備の辞典!
●第1回配本 国東京都53年12月1日発売記念特価 5,800円
(特価期限 昭和54年12月末日まで)
1400頁・カラー口絵16頁本文図版多数

角川書店 東京都千代田区富士見2 電話東京3-195208

虚子句碑 ロンドンに建つ

福本 鯨洋

雨のキューガーデンで除幕式

五月十日のロンドン郊外英国国立植物園キューガーデンは曇り空であった。沢山の木々も美しく咲く鳥の音が聞えてくる。限りなく青空にはブラッックバードが翔ち回り散らばって鳴っている。

一九三六年、昭和十一年五月二日に高浜虚子先生がここに吟行されて

浦公英に下り沈みなる彼かな
賑れるブラッックバード人を見
る
真直ぐに歩調をへて青き踏
む
雀等も人を怖れぬ園の春
立寄寄りて学名を詠む梨の花
引き寄せて離せし桃の枝採ね
る

このように「虚子日記」に書き
とめられている。
私たちがそれから四十数年後の
同じ五月の今日先生が亡くされ
たので、青空を眺み、先生が仰
がれたであろう賑りの樹々の下み
ちを散策し、日本庭園へおのが
じし向った。

日本庭園は高い丘になってい
て、丘の上は勅使門をひく、緑日
と彫られた句碑が現れた。そ
ばに並んで
Even Sparrows Freed
from all of man Engla-
nd in Spring Kyoshi Ta
kama

と英訳された碑石も置かれてい
る。虚子先生の句碑の多くは台座
が無いが、このも台座がなく
て、そのままだよな形式になっ
ている。参列者一同の拍手は感激
そのものでしほし止むことを知ら
なかつた。遠くロンドンに虚子の
句碑が建つたというのは、わが俳
壇史上銘記するべきことである
と思う。

キューガーデン園長ブレナン博
士の祝辞もそのことを強く賞美し
ていた。そして日英文化交流の上
に大きな役割を持つものであると
懇切に謝意を述べられた。

「虚子の流れをくむ俳人方と共
雀等も人を怖れぬ園の春
虚子

予定の午後三時、高木晴子さん
の手で覆われていた日英園の幕
が除かれた。

雀等も人を怖れぬ園の春
虚子

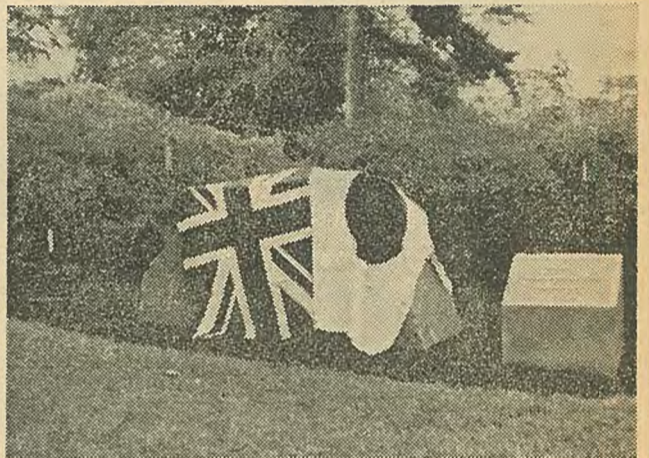
雀等も人を怖れぬ園の春
虚子



キューガーデンに建てられた
虚子句碑(後方は勅使門)



除幕後謝辞を述べる高木晴子さん



日英国旗におおわれた除幕前の句碑

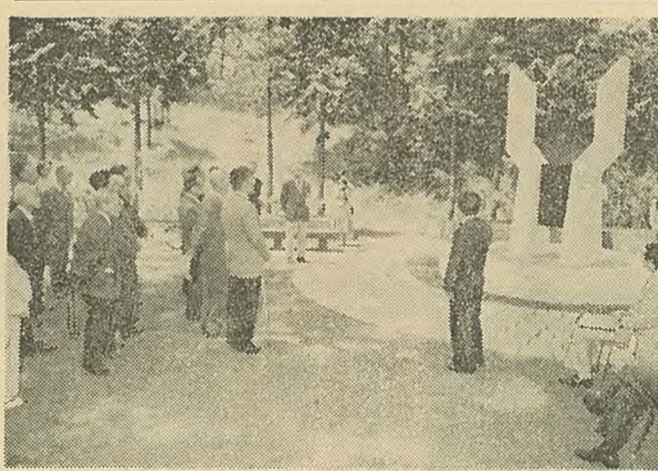
モダンな踊り子句碑 ゆかりの天城湯ケ島に

伊豆の天城湯ケ島町といえは、
いづれの山里であるとも、川
湯ケ島温泉から県道修善寺下田
端康成の「伊豆の踊子」で有名な
郷を三つほど、南に下ったところ

あるが、このたび天城湯ケ島町の
に「踊り子句碑」が建立された。
句碑は、高三郎、天城の鹿を
象徴する白と黒の角、黒の御
影石から造られているモダンな
ものであり、碑面に

「踊り子といえは朱の櫛あまき秋
五所 平之助
昭和五十四年春
昭和八年、「伊豆の踊子」映
画化の初代監督であり、また、春
灯同人の俳人でもある五所亭こ
と五所亭助氏の筆蹟が、そのま
ま、碑に刻まれている。

また句碑の裏面には、上部に作
家の北条誠氏の一文が刻まれてあ
り、その下部には「踊り子」の
役を演じた歴代(六代)の映画主
演女優、田中絹代(昭和6)、美空
ひばり(昭和8)、鶴田晴子(昭和34)
吉水小百合(昭和35)、内藤洋子(昭
和42)、山口百恵(昭和49)の名前が彫
られている。



「伊豆の踊り子」に思いをよせて...

カッパ内は映画製作年代。
なおこの句碑は、静岡県、天城
湯ケ島町、同町観光協会が約四百
万円で建てたものであり、除幕式
は去る昭和五十四年五月二十八日
に、関係者が集まって盛大に行わ
れた。(本間鼎三)

父の五郎氏は、先生の幼い日露
戦争のころ丸岡町長をつとめた人
であるが、五浪と号して土地の運
衆と俳諧に親んでいた。「二廻
り」の句には遺稿自祝の意が
こめられており、これを発句に数
人での半歌仙が巻かれた。その美
しい白筆が筆跡から発見された。
今年が先生の喜寿にあたるので
句碑の話がもたらがったこと
へ、五浪さんの自筆出現で事は
急がされた。先生は「いき

父の五郎氏は、先生の幼い日露
戦争のころ丸岡町長をつとめた人
であるが、五浪と号して土地の運
衆と俳諧に親んでいた。「二廻
り」の句には遺稿自祝の意が
こめられており、これを発句に数
人での半歌仙が巻かれた。その美
しい白筆が筆跡から発見された。
今年が先生の喜寿にあたるので
句碑の話がもたらがったこと
へ、五浪さんの自筆出現で事は
急がされた。先生は「いき

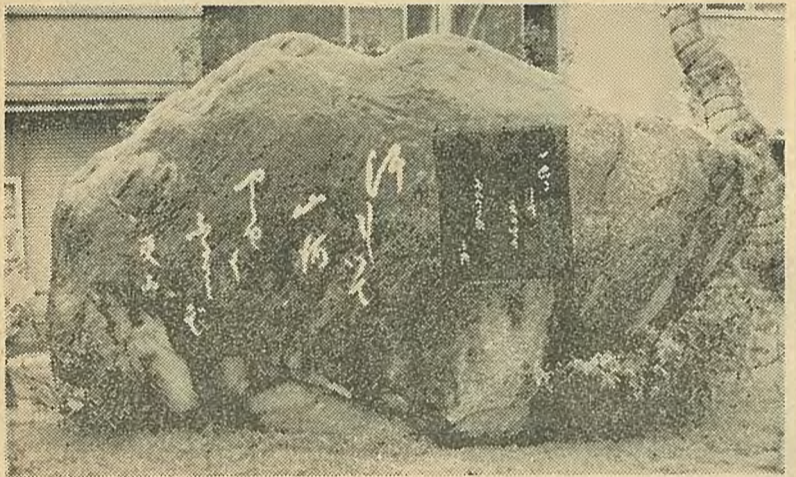
珍しい父子句碑 越前丸岡に皆吉五浪、爽雨

新緑の五月、皆吉爽雨先生の故
郷越前丸岡に、珍しい父子句碑の
句碑が完成しました。(写真)

一廻りして元の坐の花見かな
五浪
汗引いて山河ややくふるさこそ
爽雨

なら父の句と共に刻まれただけ
れば、と申され「費用の一切は自
分に任せてほしい」と強いわれ
る。この句碑は喜寿の記念として
発願され、建設費は先生の叙勲ま
で加わり、二重祝賀の記念碑とな
ったが、それ以上に、先生の父に
対する孝養の句碑となったのであ
る。何と喜ばしいことではないか。

句碑は丸岡に古城を仰ぐ湯ケ島
公園に建てられており、十六ト
ンの伊予磐石は、すでに公園の重鎮
という感じである。諸事なご福
井県俳句会の手で世話をしていた
だいたもの、特別に支援してく
れた仙台の田村星精氏と、建設の
中心になり奮闘してくれた地元
の本多柳芳氏に感謝しなければなら
ない。



珍しい父子句碑
越前丸岡に皆吉五浪、爽雨

父の五郎氏は、先生の幼い日露
戦争のころ丸岡町長をつとめた人
であるが、五浪と号して土地の運
衆と俳諧に親んでいた。「二廻
り」の句には遺稿自祝の意が
こめられており、これを発句に数
人での半歌仙が巻かれた。その美
しい白筆が筆跡から発見された。
今年が先生の喜寿にあたるので
句碑の話がもたらがったこと
へ、五浪さんの自筆出現で事は
急がされた。先生は「いき

父の五郎氏は、先生の幼い日露
戦争のころ丸岡町長をつとめた人
であるが、五浪と号して土地の運
衆と俳諧に親んでいた。「二廻
り」の句には遺稿自祝の意が
こめられており、これを発句に数
人での半歌仙が巻かれた。その美
しい白筆が筆跡から発見された。
今年が先生の喜寿にあたるので
句碑の話がもたらがったこと
へ、五浪さんの自筆出現で事は
急がされた。先生は「いき

父の五郎氏は、先生の幼い日露
戦争のころ丸岡町長をつとめた人
であるが、五浪と号して土地の運
衆と俳諧に親んでいた。「二廻
り」の句には遺稿自祝の意が
こめられており、これを発句に数
人での半歌仙が巻かれた。その美
しい白筆が筆跡から発見された。
今年が先生の喜寿にあたるので
句碑の話がもたらがったこと
へ、五浪さんの自筆出現で事は
急がされた。先生は「いき

第三回東京大神宮観月祭俳句会

▼本年度の観月祭俳句会を次の通り行いたいと思ひます。お
誘い合せの上ご出席下さいませよお待ち致します。

日時 十月五日(金)午後五時 開会
場所 東京大神宮(国電飯田橋下車)
会費 千円(句会費を含む)

講演 草間時彦(江戸の月・東京の月)
選者 有働孝・大馬美夜子・成瀬櫻桃・原裕・村山古郷
(尚)前日出句の部も選者は同じです)

句会 当日観月 二句
祭事 入選句発表(優秀作品に対しては各賞の賞品を贈
呈いたします)

▼前日出句の部応募要領
会費 一口千円・三句(金)季雑誌お一人にて何口応募
されても結構です。

▼又切日 五十四年九月十五日 当日消印有効
投句先 東京大神宮観月句会係宛
住所 姓名は横書でわかりやすくお書き下さい。
▼投句作品選者 有働孝・大馬美夜子・成瀬櫻桃・原裕・
村山古郷
尚 投句用紙は第二回観月句会選句集の末尾に添えてあり
ますが、別用紙にて結構です。選句集御希望の方は東京大
神宮の係り宛に送料共切手三〇〇円同封の上御一報下さい。
▼宛先及開会先 〒100 東京都千代田区富士見町二の四
東京大神宮社務所 観月句会係
TEL (03) 2621-2400
主催 東京大神宮 協賛 俳人協会

第25回松島芭蕉祭並びに全国俳句大会

日時 昭和五十四年十一月十日(金)百曜日)午前九
時 時分開始

場所 芭蕉祭(午前十時) 松島海岸温泉本堂
俳句大会(午後一時) 松島海岸温泉本館(端巖寺
西隣り)

選者 横山白虹(自鳴鐘寺寺・現代俳句協会会長) 遠藤裕
逸(みちのく主宰) 草間時彦(俳人協会理事長)
佐藤鬼房(大隈同人) 加藤樹穂(俳壇主宰) 永野
孫柳(俳句雑誌主宰)

講演 横山白虹 草間時彦
兼題 当季雑誌二句(二句一組とし一人何組でもよいが
未発表作品にかぎります。)

原簿用紙を用い一組毎に作品、姓、俳号、本名、
住所、郵便番号の順に横書きで明記して、特に作品
と姓、俳号の読みにくい字には、ふりがなを。
縮小コピーを必ず同封して下さい。なお投句料の
ないものは失格とします。

投句先 宮城県松島町松島字町頭三〇(九九八一〇二)
石崎秋夫方全国俳句大会係宛。

大会当日 席間二句(松島周辺の晴日午後一時切。
主催 宮城県俳句クラブ
松島町

関西支部の15年

関西人会のはじまり

編纂部 本日は、お花がいと
ころをどうもありがとうございます。いま
は、関西支部がちょうど十五周年
というところでお集まりのたい
たわけです。特に米沢先生は細
節までおまかせくださりお出掛け
いただきましてありがとうございます。
ところで、五周年といいますが
関西支部の発足はいつですか？

森田 発足といつと実質的な
大会の顔合せと違つて、すけれど
も、まず最初は支部というものが
なかったわけですね。関西で俳句
大会をやろうというところになり
まして、第一回の打ち合せを開き
ました。それが支部の発足とい
うならば、三十九年の八月二十四
日、大阪の南海沿線の大神の森に
ある三好潤子さんのお宅を借りて
そこへ、東京からこれら先生方
と米沢先生、後の支部長以下
呼ばれた者が集まつたわけ
です。その時、米沢先生が「一番よ
く存知です」……

米沢 今お話をした三好さん
のお宅で第一回の打ち合せをや
った話ですが、何月だったと思
いますか？

裏方の苦労

編纂部 第一回の関西大会は投
句料が二百円だったんだぞ
うです。送り先はどこだった
んですか？

米沢 投げは全部私の家に集
めて私の家内と整理したんで
す。

編纂部 そうすると三好先生
の所に集まつたわけですね。

米沢 整理がたいへんでした。
家内と二人でね、家内も素人
で、おまじい……。とこ
ろが、段々、やり直して二年三年
立つ間には人の名前をかなり覚え
てくれたんです。ああ、今年に
この人から出ていないよと
よつた。惜しいですね。



米沢さん

後藤子先生・福永先生・若杉先生
・非文先生といった方々に始ま
り、米沢先生が全部話をつけて下
さった。そして、第一回の打ち合
せが、三好潤子さんのお宅で開
かれたわけなんです。……その
時、本部側から出席していただ
いたのが、米沢先生それから三好
君、ホトトギス系の方は自分の方
で話をつけてあげよう、というよ
うな話があったんです。そして、
その時、どなたでしたか？

米沢 秋子先生のお宅へ行く
たこともありません。目の前で選
をしてもう一つ持った事もある
んです。

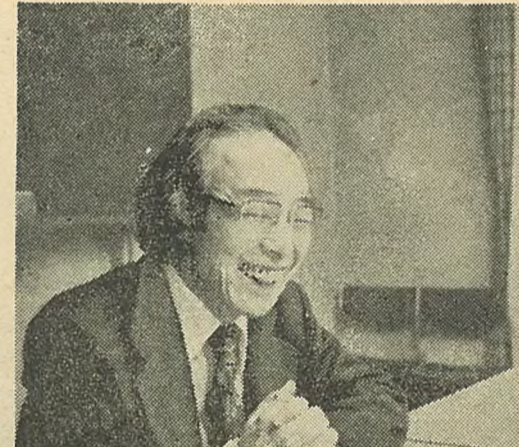
編纂部 その頃は、俳人協会も
金がなかつたから、夜長さん、米沢
先生が……。と出して下さった
そうです。たいへんお気の毒
な事でしたね。

見市 そうですね。



浦野さん

編纂部 大会の第一回は慶林会
を椅子が閉めた会場に入った石期



見市さん

関西俳句講演会
浦野 今の話で、大会が非常
にスムーズにいった。これは理
由が一つあると思うんです。大
の二年前に、関西俳句講演会が
あるんですね。これは協会の設立
の元不死先生を中心にして、秋
元先生が本部からお越しになつ
て大阪のあれは……

森田 ああ、それは毎日新聞の
講演会でした。

浦野 え、それは藤田潤子さ
んがやって、協会の設立の報告は
岸風三郎さん。そのあと、秋元先
生、石川先生が講演をやり最後に
水原先生が「苗圃と無村」とい
うお話をしまして非常に盛んな会
だったんです。そのあと、地下のク
リルで関西の会員と東京の先生方
と懇談会があった。そういう催し
があった。その時に集まつたメン
バーが、ほとんど準備委員会と呼
ばれた連中、第一回の俳句大会に
かけた連中もあつた。「よ
しや、やうぢやないか」とい
うような、期せずしてそういう聲
が大阪の連中にもすつかり出来
あつたんじゃないかと思うんで
す。だから、関西俳句講演会とい
う催しが大きな原動力になつたん
じゃないか、今でも思ひ出すん
です。

米沢 なるほどね、そういう事
もあつたかと思ひますね。

森田 大層講演会がよかった講演会
の時、桂野さんがやりました「芸

も山口先生の出席でして、あ
りがたく思ひます。青歌先
生は全部出ておられ
編纂部 そうですね。

見市 いろいろ準備の段階では、
こんな広い会場をどうするか
と思ひながら、いつてもやってみ
る。椅子がなくなるとか、状態が
とんぱつていましてね。カラカラ
で困つた。……

森田 それは第一回五年だつ
たですか？ 僕もその講演はよ
く覚えてますね。

浦野 私ね、第一回の大会に
は想ひ出がいろいろ、草田先生
が「自然の自然」という講演
をされたんです。それが、時間が
きてもめつてくれない。……

見市 現代作家の短冊を入手
することが、その当時はコレク
ションにとりかかっていたんです。
編纂部 ま、色紙短冊という
のは京都も含めて、主催者側のお
手紙のほうに……

森田 それに、色紙短冊専門家の
津久間松翁さんが地元におられ
たから心強かつたですね。



森田さん

す見せられて、落語なんかやつて

座談会出席者

(敬称略)

- 米沢 吾亦紅
 - 見市 六冬
 - 浦野 芳南
 - 森田 峠
- 司会 本紙編纂部
昭和五十四年三月十四日
大阪住友クラブ



池田弥三郎著作集 全10巻

白鳳社版/現代の俳句

自選自解句集シリーズ

第10巻 3月刊好評発売中

自選 皆吉爽雨句集

第11巻 4月刊好評発売中

自選 安住敦句集

続刊 石塚友二(7月)/石原八束

沢木欣一

既刊(二〇〇一五〇〇円)

- 自選 水原秋桜子句集
- 自選 大野林火句集
- 自選 飯田龍太句集
- 自選 阿波野青歌句集
- 自選 山口誓子句集
- 自選 中村汀女句集
- 自選 富安風生句集
- 自選 山口青邨句集
- 自選 秋元不死男句集

角川書店

大正俳壇の二頁

京極杜藻



大正四年九月、牛込船河原町の
ホトトギス発行所例會に、一ツ橋
南琴吟社の学生数人が出席してい
た。幸高、内藤、渡辺、
辺水、原月舟等の定連、披露
を、虚子が吉野左衛門(当日の珍
喝)の京極杜藻が側に陣
を椅子が込んだ会場に入った石鼎
は、ホトトギスがやるんぞか、
と驚いた。俳句会とは坐してや
るものではないか、と石鼎は
指導で連中はめいめいと脚を
上げ、ホトトギス(句の一角に細
旋風を起した。それがきっかけ
となって東都の諸大家、早稲田、
鷹、国學院、高士等、等に俳句会
が生まれ、争って石鼎を師に迎え
た。

は毎回長谷川等閑子だった。島田
客に、これがあの吉野で名吟を
吐いた原石鼎だよ、と紹介した。
南琴吟社の連中は、是非石鼎さん
に指導者になって貰おうと、種谷
句会に石鼎を招いた。大きな卓子
を、時々の心待ちにするのが
常である。梅雨の晴れ間の今も
しきりに晴らしては、
朝は朝の晴、その緑の野道
を散歩するが、人影に逢うのは稀
である。そのようなき、ふと志
賀高原をひと歩みつつ、詠われ
たといふ。

輪中の郭公

近藤鴻



鶴飼の長良川をや下ると、金
華山の城が東北に望まれる輪中の
一角に、墨俣の一夜城跡がある。
その一夜城跡の傍方に、ひろが
る扇形の青野は、出水の折りの
遊水地帯で、輪中の農家の出作り
の桑畑や小さな杜が点在し、その
へりを、青野の生えている輪中
堤が囲んでいる。

郭公や何処までゆかば人に逢はむ
亜浪

東京に戻って

三谷いぢる



ついでにと頼が現われ、舞扇のバ
ネルは応接間の壁につり、襦袢
を床の間に立てた。かたわらに居
た家内が今日は、おじい様の命日
ですと、もらした。そうであつ
た。忘れていたものが、いろいろ
と置っていた。

季節の窓

石斛

有珠山のねばり強い火山活動か
ら解放(停年退職)されて東京の
花である。

風が吹きた後、下枝や地上
に吹き落された石斛を拾い集め
て、古木の空洞や木の股、或は
苔蒸した岩の隙間に埋めるとそ
れは生き返って割れ目に溜った
腐敗物は肥沃な土となつてこの
着生植物の恰好な住みになる。
木版に似た葉は水分を貯え乾期
にそそぐ。

今ここに見える二本の梅の一本
は枯れ、残りの木の幹にしまよ
うに殖え続けている石斛は、花
を結ぶ若葉の中にある僅かな実
が色づき初めている。巨大な老梅
の主宰に、豪華な白練の打掛を
まどつたように幾千の花を風に
散らして見事な戦がはなつた。
画と文 赤堀 秋荷

思い出の人々

十五年を振り返って

(四面より続く)

森田 関西支部として十五年を
振り返ってみますと、その間に
一掃に苦闘した連中の中で不幸に
生が五十二年に亡くなられて、中
して亡くなった方があります。
ね。一回目から、天狼から委員と
して出て来て非常に活躍されて
われわれも真実を言えんと親しく
していた矢野英秋さんが病気で
倒られてその後ついに亡くなら
れた。これなんか、今に思ひ出
し出すと、今に思ひ出すと、今に
先方がやはり高橋の方が多く
亡くなられたら、死んでしまふ
思いをします。大橋被ばり先
死んでしまふ。関西大会には必
ず見えて、落着きながら、
もつたりして……司会者の腕と
して何か一席やってみたら、
随分とついでに、おや、
と先生も新作落着きを考えてら
れましてね。……

森田 文学館を建てた時、全
的に呼びかけたわけですが、関西
でも関西建設委員会を作りまし
て、われわれがいろいろ奔走
したんですが……。文学館も建
ち、ある程度基礎もできて、こ
れからは会員のために、関西支部
の会員のために、力にならうかと思
っております。

米沢 ま、十五年を振り返るよ
うになつてきたので感無量で
すね。これから待たせしめて
関西支部を育てていってくださ
ると楽しみにしております。
——終わり——



東京・目白の椿山荘で開かれた「水明」50年記念大会の会場

功労者50名を表彰

「水明」創刊50年記念大会

昭和五年九月、長谷川かなさん
によって創始された「水明」は、
主宰者長谷川秋子、星野沙一と
受け継いでここに五十年を迎え
た。そこで記念大会を五月二十日
東京椿山荘にて開催、来賓四十五
名を呼び約三〇〇名が出席して、
諸行事を盛況に繰り広げた。
大畑海峯大会委員長、砂一主
宰の挨拶のあと、来賓祝辞を次の
水明賞(結社賞)は小畑美夜子、
小内春子、

川内てつと、丸見えに
今年度新設の季音賞(同人賞)は
小内春子、星野明世、松原歌
子、佐々木久代の四名が受賞し
た。

大会兼入会者(若駒)の特選句の
披露があり、また新季音作家(七
名)、新同人(四十四名)の一季
発表が行われた。内外の祝電は多
数にのぼった。

第二部、パーティは、来賓を交
えて祝賀し、大いに歓談した。
「水明」自慢の歌舞音曲も、つ
いには直原玉青、海峯、村山吉
子、松沢昭、三橋敏雄、村山吉
子、見学。
かくて有意義ある創刊五十周年の祭
事を終り、庭前に変化をつくす噴
水の音のみが大きかった。
(小内春子)

第18回全国俳句大会御案内

日時 九月八日(土)午後一時より
場所 東京・有楽町 朝日新聞社本社(入場無料)
講演 尾形ゆづり「芭蕉の旅」・細見綾子「花の語」
大会参加者より一句を募集、出席者数名による選考
行ない、特選句には賞を呈します(投句箱切一時半)
主催 社団法人俳人協会
援朝日新聞社

第1回山形県俳句大会のお知らせ

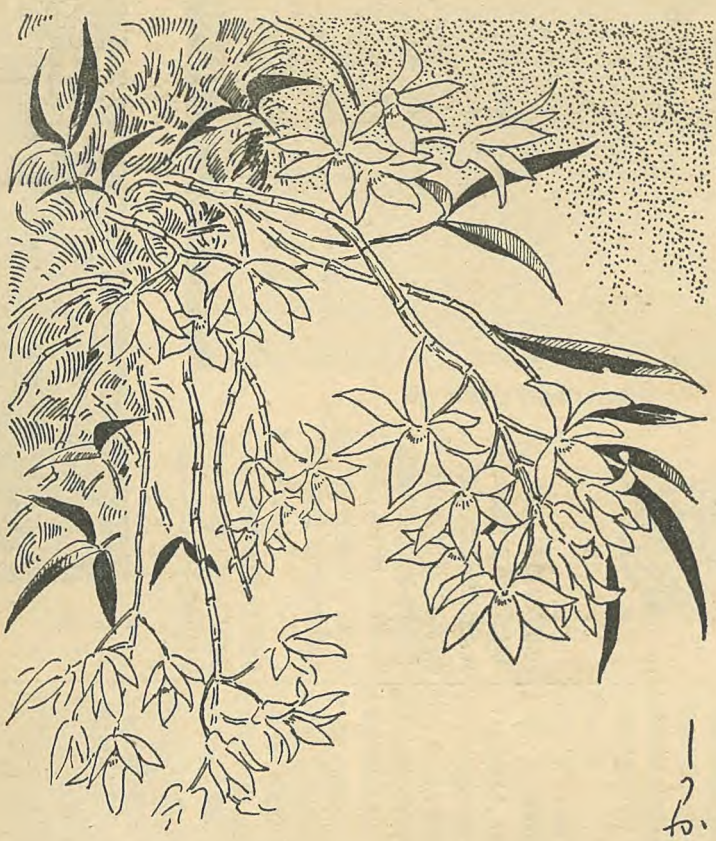
日時 昭和五十四年八月二十六日(日)正午開会
会場 山形市山形県民会館地下講堂(旧県庁前)
投句 未発表季音三句(住所・氏名)並日出席の別を
記入)
投句料 五〇〇円(初手不可)
締切 八月一日(当日必着)
あて先 千鶴山形市南町一―一十六山形県俳人協会
選考者 村山吉子・鷹羽好行・秋沢猛・松村賢隆・細谷陽吉
・大谷桃村・土屋巴浪・福地純・行方真次郎・岡部
子映
入選 特選三句 秀逸五句 佳作一〇句
主催 山形県俳人協会

夏季国語研修講座

国語科授業における俳句指導の方法
◇期日 昭和五十四年八月七日(火)・九日(木)
◇会場 俳句文学館
◇対象 今後は東京都内の中学校・高校の教師を対象としま
すが、俳人協会員は他地区も参加自由です。
◇定員 八十名
◇会費 三千元
◇申込締切り 七月十五日、ただし定員になり次第締切りま
す。
◇申込方法 俳人協会研修係までお問い合わせ下さい。
〒100東京都新宿区百人町三二―二二〇
電話〇三(三六七)六六二一

講座日程

第一日 八月七日(火) 文化庁担当官挨拶
今泉藤中央大学教授講演
大野林火俳人協会会長講演
第二日 八月八日(水) 俳句鑑賞の基本(龍村登四郎
・香西照雄指導)
俳句指導の方法(バウルディ
スカツシヨ) (北沢瑞史、松
本旭・松井利彦・村田博
郎・井沢正江)
第三日 八月九日(木) 実作指導(青川整水・岡田日
郎・井沢正江)
主催 社団法人 俳人協会
後援 文化庁

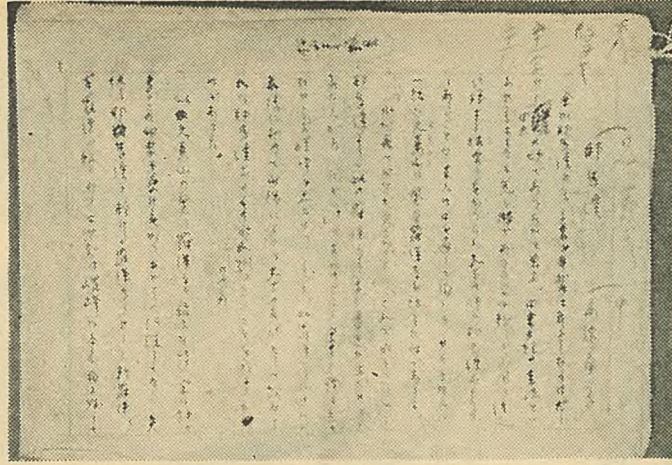


いぢる

第19回俳人協会賞 第3回新人賞 対象作品

昭和53年10月 54年6月15日 寄贈分

Table with columns for author names (著者名), titles (書名), and recipient names (宛先).

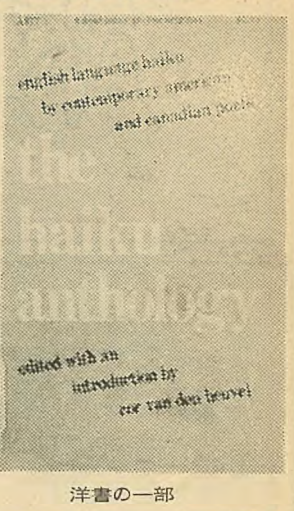


虚子先生の明治人山時代原稿

寄贈された虚子原稿の一部. Text describing the donated manuscript by Kyoji.

これらの原稿が、ここに伝えら... Text about the manuscript's history and significance.

- List of items included in the donation, such as '消息(明41-12)', '消息(明43-8)', etc.



洋書の一部

洋書の目録を 開始 収載は55冊

海外に於ける盛んな俳句熱に... Text about the book catalog project.

- List of book titles and authors included in the catalog, such as 'The haiku anthology (cor van den Heuvel, Doubladay)', 'Haiku in Western Languages (Gary L. Bower, Scarecrow)', etc.

俳誌の寄贈受く

世田谷区にお住まいの境氏か... Text about receiving haikai magazines.

- List of haikai magazines received, including '春泥', '俳諧雑誌', '俳句春秋', etc.

高知の 窪場. Text about a person named Kubo from Kochi.

先日の齋藤尾土蔵は... Text about a building or location in Kochi.

西垣修さんの句集

西垣さんが亡くなってから早い... Text about a haikai collection by Sei Nishikuni.

この句集は、昭和十一年頃... Text about the collection's history.

これが昭和十一年に入ると、更に... Text about the collection's impact.

この新山に六年前から外人... Text about a new mountain project.



西垣修氏

関西支部会員の集い

日時 九月二十日(土)午後一時より... Text about a meeting for Kansai branch members.

町春草書道教室

町春草先生が直接指導して下さる書道教室... Text about a calligraphy class.

本紙綴じ込み表紙

本紙の綴じ込み表紙(紺地布張・ひと付き)を希望の方は... Text about a subscription option.

俳人必携の書

「俳句文学館俳誌目録」を頒布... Text about a book for haikai enthusiasts.

昭和俳句の金字塔

現代俳句選集第五集を頒布... Text about a collection of modern haikai.

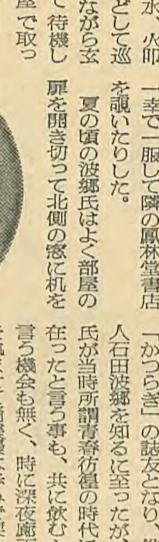
※右要領でご注文のさいには、必ず俳誌目録申し込みと明記。 Text with additional notes and contact information.

版された、第二集「桐の木」... 氏は桐葉の中で「本年、作句し... (大塚水路)

随想

アパートの管理人のために。館内外を巡るに... 追憶の波が何となく和服で... 石橋の石壁に腰掛けて待機し...

松本 平... 駒場会館の想い出... 追憶の波が何となく和服で... 石橋の石壁に腰掛けて待機し...



松本 平



矢野良平

駒場会館を最近東京の... 追憶の波が何となく和服で... 石橋の石壁に腰掛けて待機し...

矢野良平

全国大会と句碑建設... 昭和五十四年五月三日、花... 矢野良平氏が、矢野...

ガルシア・繁子... 南加州では年二、三回、サン... 矢野良平氏は、矢野...

江口 竹亭... 最近、ある俳誌に、一句の内... 矢野良平氏は、矢野...

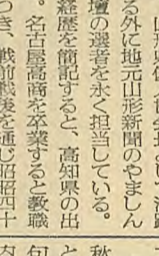
板垣鏡太郎... 板垣鏡太郎... 矢野良平氏は、矢野...

秋沢氏に芸文会議賞

山形県芸術文化協議会が今年より... 秋沢氏に芸文会議賞を授けられた。

至急名乗り出て下さい

俳人協会年報の送金ありがとうございます... 名乗り出て下さい。



秋沢猛氏

山形県俳人協会会長として活躍... 秋沢氏に芸文会議賞を授けられた。

「ほおずき市」を見る会が中止

関西支部主催の「ほおずき市... 見る会」は、応募人員が少ないため中止と決定された。

創刊号物語

〈21〉

名を冠して「かひれ」は... 創刊号の物語...

「かひれ」

昭和五年の四月二十日に... 「かひれ」創刊号の表紙...

常陸風土記

小松崎 爽青

「常陸風土記」の... 創刊号の表紙...

山名を誌名に

「かひれ」創刊号の表紙... 山名を誌名にした...

「毎日俳句通信添削教室」ご案内

毎日新聞社が「毎日俳句通信添削教室」を開催いたします。一流の先生が直接、添削指導にあたり、本格的な添削教室です。

【案内】
【期日】
【会費】
【入会方法】
【案内】

【期日】
【案内】

【期日】
【案内】

【期日】
【案内】

【期日】
【案内】

【期日】
【案内】

【期日】
【案内】

【期日】
【案内】

